見川中学校区　施設分離型小中一貫教育に関する研究

見川中学校　　見川小学校　　梅が丘小学校

めざす児童生徒像　　**将来をたくましく生き抜く力をもつ児童生徒の育成**

研究主題　　**将来をたくましく生き抜く力をもつ児童生徒の育成**
－「特別の教科　道徳」並びに道徳教育を軸として－

１　主題設定の理由

新学習指導要領においては，「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し，社会との連携・協働によりその実現を図っていく」と明記され，学校・家庭・地域社会が協力し，児童生徒一人一人の個性・能力の伸長や，豊かな人間性・社会性の育成につながる義務教育９年間の学校教育のより一層の充実が求められている。

見川中学校区は，これまでも毎年「小中合同夏季研修会」を実施しており，平成２９年度から「三校合同引き渡し訓練」を実施する等，小中連携を推進してきた。しかし，小学校，中学校がそれぞれ個々の教育活動に留まっていた部分も多かったので，９年間を見通した教育課程の中で児童生徒の育成を行うため，系統性・連続性のある教育活動を，より推進する必要があると考えた。

そこで，９年間で育てたい児童生徒像を設定するに当たり，見川中学区内３校の児童生徒の実態を調べた結果，道徳性の面で共通の課題があることが分かったため，見川中学校区の小中一貫教育推進の柱として，道徳教育に取り組むことが効果的であると考えた。道徳性を育むことは，「豊かな心」だけでなく，「確かな学力」「健やかな体」の育成の基盤になり，「生きる力」の伸長につながる。

また，道徳教育の研究・研修を３校共同で行うことにより，各学校及び教職員同士の相互理解が深まり，さらに児童・保護者，地域の実態に関する理解も深まり，小中一貫の協働体制を確立できると考え，本主題を設定した。

２　研究のねらい

○　道徳教育に３校が連携して取り組むことを突破口として，小中一貫教育の協働体制を構築する。

○　小中学校で「目指す児童生徒像」を共有し，３校が連携して学校教育全体で道徳教育の視点を生かしたより質の高い教育を実現することにより，「生きる力」の伸長を促進する。

○　３校の学校内外の資源を相互もしくは共同活用することにより，地域，保護者等との協働を深め，学校教育の質の向上を図る。

３　具体的な取組内容

（1）組織

(2)　実施内容

年次	内　　容
1	見川小学校区の児童生徒の実態の把握と，３校の交流を行うことによる教師間の連携と相互理解を深め，今後の研究の方向性を探る。
2 (本年)	「特別の教科　道徳」並びに道徳教育を軸として，見川中学校区の９年間を見通した児童生徒の育成を目指す。道徳科の指導案作成や授業実践を共同で行うことで，道徳科の質の向上と教職員間の連携・交流を深め，小中一貫教育の基礎をつくる。
3	「特別の教科　道徳」並びに道徳教育を軸に据えて，２年目以上に連携・交流を深めながら，より効果的な小中一貫教育体制を確立する。

今年度の内容・方法

月	内容・方法等
5	企画会，推進委員会，部会研修
6	部会研修，相互授業参観
7	企画会，推進委員会，
8	全体研修，企画会，推進委員会，中学校職場体験学習（小学校で）
	小中合同引き渡し訓練の実施
9	中学校陸上部の小学校との合同練習，部会研修，小中合同教科部会
10	中間発表会，要請訪問，相互授業参観
11	学校公開「学校にようこそ」の幼・小・中合同開催
12	企画会，推進委員会，小中合同教科部会
2	企画会，推進委員会（研究２年次のまとめ）

(3)　基本的な考え方

○　道徳教育の推進を軸とした小中一貫教育構築

９年間で育てる児童生徒像において，道徳の全ての内容項目を取り上げるのではなく，児童生徒の現状を把握し，「どこに手を入れれば，小中とも同じスタンスで指導に取り組めるか」を明確にした。

そこで，「善悪の判断・自立・自由と責任」「親切・思いやり」「生命尊重」を３校共通の重点項目とし道徳教育を軸とした指導をしていく。

また，道徳科の授業においては，指導案の共同立案や相互授業参観等で，授業の質を高めつつ教師間の連携・交流を深めていくことで研究を推進していく。

○　道徳教育を効果的に推進するための組織とその活動の在り方

推進委員会・企画会を研究組織の中心に位置づけ，研究推進を図る。また，部会研修を「授業研究部」「調査・評価部」「記録部」と分けることで，それぞれの役割を明確にして，各部会をコンパクトにすることで，３校の部員が臨機応変に活動できるようにした。

○　「自己肯定感」・「自己有用感」を高める道徳指導の在り方

道徳科の授業を「考え・議論する道徳」に転換し，自分が主体的に参加したり，自分自身の考えを振り返り，自分自身を見つめる機会を得たりすることで自己肯定感を高めることにつなげていく。

また，学校教育の中において，異年齢集団活動を行うことにより，自己有用感を高めていく。

(4)　道徳教育に関する具体的な取組

①　道徳及び各教科指導において，主体的な活動・話し合う活動・書く活動を充実させたことで児童の活躍の時間を確保する。

・道徳ノートを使用し，吹き出しや表情のイラストなどを入れ，学年に応じたまとめ方ができるよう指導している。コの字型などの学習形態，心情円盤を利用した授業展開といった，話し合いを円滑に進めるための工夫を行っている。

② 道徳教育全般の中で，異年齢集団に活動を実施する。

・たてわり遊び… 各学期，１週間ずつを，２学年合同で遊ぶ時間を設定する。遊ぶ計画は，高学年側が学年児童会を特設し，計画を立てる。

異年齢交流を行うことで，上級生には思いやりの心とリーダーシップを育て，下級生には協力する態度を育てる。

③ 他学年の活動の様子を定期的に「みんなの放送」で紹介する。

・みんなの放送…月１回，学年行事や児童同士のインタビュー，部活動紹介などを撮影した動画を放送し，児童の活躍の場を増やす。

④ エンカウンターを取り入れた活動を実施する。

⑤ 板書の写真を撮り，データを共有する。

・データは共通フォルダに保存し，いつでも共有ができる状態にしている。

⑥「道徳の足あと」コーナーを設ける。

・各学年，「道徳の足あと」コーナーに，板書の写真を掲示し，児童がこれまでの道徳の授業をふり返ることができるようにする。

４ 成果（進捗状況と今後の課題）

(1) 成果

○ ３校合同の研修会を実施し，道徳科の指導案作成や授業実践を共同で行うことで，道徳科の質の向上と教職員間の連携・交流を深め，共に道徳教育を要として目指す児童生徒像の共有が図られた。

○ 道徳教育において，３校共通の重点項目を設定したことにより，目指す児童生徒像に向けて，９年間の看取りをすることについて，共通の認識をもてるようになった。

○ 昨年度に引き続き，３校合同の引き渡し訓練や幼稚園を含めた各種の交流行事を実施し，保護者や地域の方々に小中交流の取組を広報することができた。

(2) 課題

○ 小中一貫教育の取組において，ホームページなどを活用した地域等への広報を積極的に行うことが課題である。今後，コミュニティ・スクールの実施などにより，地域との連携をさらに深めることが重要であり，ホームページを活用した広報が有効な取組になるよう，検討していきたい。

○ 今年度，道徳教育における小小連携は深まったが，次年度は，中学校における心情円盤の活用など，９年間を通し連続した指導となるよう，教職員間での意識向上を進めていきたい。

○ 指定期間終了後も継続した取組となるよう，教職員一人一人が，今後何をやるべきなのかを明確に掴み，主体的な取組になるよう，３年間の研究のまとめを行い，今後の教育活動に繋げていく。